

(1)

- きょうの紙面
- ② 法人所得が1・8兆円減少
 - ③ 岩国断層帯に新たな活断層
 - ⑥ 米、0・5%の追加利下げ
 - ⑩ 徳山の商店街に哲学カフェ
 - ⑪ 大分教員汚職で元校長有罪

商店街に「哲学カフェ」



小川准教授(中央)とともに「哲学的対話」を楽しむ参加者ら

徳山高専・小川准教授が「オープン」

堅いイメージがある哲学をコーヒーでも飲みながら気軽に楽しんでもらおうと、周南市学園台の徳山工業高等専門学校の小川仁志准教授(48)が本年度から自身の研究室で始めた「哲学カフェ」。一般市民も広く参加できるよう、今月から会場をJR徳山駅前の商店街に移して行うことになり二十九日夕、学外での第一回が開かれた。

徳山駅前

会場はコミュニティー施設ふれあいパーク街あい内の徳山高専夢広場。「自由」「愛」「死」「美」「他

初めて参加した同市東山の窪田ユリ子さん(62)は「自分自身をよく知ること」がテーマで、哲学カフェのような存在は今の社会に大事。街の中に会場があると多くの人が参加できるのでは。

「愛」「死」「美」「他」をテーマに、小川准教授は「哲学は物事の見方を深めてくれるのだから、難しい用語は使わない。」

市民対話の場 気軽に参加を

小川准教授は「哲学は物事の見方を深めてくれるのだから、難しい用語は使わない。」

小川准教授は「哲学は物事の見方を深めてくれるのだから、難しい用語は使わない。」

「哲学カフェ」は、徳山高専で哲学を教える小川准教授が、以前は名古屋市の職員として市民社会の盛り上げに携わった経験から、大学で哲学を専攻した経験から「哲学を使って市民同士が対話する場を周南につくろう」と哲学カフェの開催を思い立ったという。

学外に初めて飛び出したこの日は、学生や市民ら約二十人が参加。「どうして他人のことが気になるのか？」をテーマに、小川准教授が進行役を務めながら約一時間、「他人は自分を愛

(石田晋作)